

大規模農業経営を目指す皆さまへ

応援しています



大分県で大規模園芸団地に チャレンジしてみませんか？

今後10年、20年先も農業を営み、農村地域を守り 持続的に発展させていくためには、収益性が高く地域・・確保していくことが大事です。
産地をけん引する力強い担い手を数多く育成

その一つとして、より効率的で競争力の高い 営農モデルの実現が必要であることから、大分県では数ヘクタール規模のまとまった農地に、圃場の大区画化や用水施設の設置、農道拡幅などを整備した大規模園芸団地整備を推進し、意欲ある担い手の経営拡大を強力に支援しています。

大規模園芸団地

テンプラス
10+プロジェクト

県・市町・農業関係団体で構成された推進体制のもと、県内に概ね10ha以上の大規模園芸団地を2024~33年までの10年間に10団地以上、新たに整備することを目標に取り組んでいます。



豊後高田市
白ねぎ団地



国東市
カボス団地



県内の大規模園芸団地



竹田市
スイートコーン
キャベツ団地

杵築市
ゆず団地



佐伯市
レモン団地



“大規模園芸団地のメリット”

1. 大型機械や最新の農業技術（スマート技術）を導入しやすく、生産性と品質の向上が期待できます

2. 大量生産により単位あたりのコストを抑えることができ、価格競争力が向上します

3. 複数の品目または品種を生産することで、リスク分散や市場ニーズへの柔軟な対応が可能です

4. 集中的な管理が可能なため、農薬や肥料の使用を最適化でき、環境負荷を軽減することができます

- ☑ 県、市町、農業関係団体が一体となってサポートしていきます！
- ☑ 農地確保から優良農地化、施設・機械整備、営農指導など重点的にパッケージで支援をしていきます！

お問い合わせ

大分県農林水産部農林水産企画課

〒870-8501 大分市大手町3丁目1番1号 TEL. 097-506-3552 FAX. 097-506-1757

団地面積

31.3ha

地元
生産者

竹田市 | スイートコーン・キャベツ団地

- 参入経営体=河野公明、ほか生産者 15 名 ● 経営面積=8.4ha
- 参入スケジュール=R1 県営畑地帯総合整備事業 竹田西部 3 期スタート (~R9 予定、事業面積 33.8ha、区画整理/幹線農道整備/かんがい施設整備) → R4 営農開始
- 活用した支援事業=県営畑地帯総合整備事業

農地集約で作業効率 UP !

竹田市 菅生

竹田西部 3 期区 換地委員長 河野 公明 さん



菅生では、夏はスイートコーン、春秋はキャベツ、冬はニンジンを中心に栽培しています。温暖化の影響で、天水頼みの作付では十分な収量を得ることが難しくなってきましたが、そんな中でも結果を出せるよう、畑かん用水を活用するなど最善の努力を続けています。今回の事業は、菅生地区の平井と今にまたがる34haの土地を整備するもの。大分県酪農振興公社と個人の生産者たちがそれぞれ所有する土地を集約し区画形状を整え、生産性の高い大規模圃場が造られたことで、団地内にまとまった農地を確保することにしました。また、大型のトラクターやトラックが離合できる広い農道も整備されているので、効率よく作業ができるようになりました。

こうした区画整理の直後は、農地の水はけが変化することがあります。今後、団地への参入を目指す方は、造成後の排水管理が重要と考えます。

詳しいストーリーは WEB でご覧いただけます >>>



団地面積

8 ha

参入
企業

佐伯市 | レモン団地

- 参入経営体=小川香料おおい佐伯農場 (株)
- 参入スケジュール=H29 進出先決定 / 基盤整備 (~R3) → H30.8 小川香料おおい佐伯農場 (株) 設立 / 営農開始 → R3.3 定植開始 → R6.11 初の本格収穫
- 活用した支援事業=県営経営体育成基盤整備事業 (機構連携型)、県営農業水利施設保全合理化事業、果樹経営支援対策事業、活力あふれる園芸産地整備事業 (産地生産基盤パワーアップ事業活用)、企業等農業参入推進事業、次代へ繋ぐ園芸産地整備事業

プロジェクトチーム

“PT” のバックアップに感謝

小川香料おおい佐伯農場 (株)

社長 上野 俊輔 さん



明治 26 年創業の老舗香料メーカーとして、近年、国産素材の香料開発に力を入れてきました。その中で、日本各地にある魅力的な素材に出会うとともに、生産者の減少など日本の農業が抱える問題も目の当たりにし「農業をやってみたい」と思うようになりました。そんなある日、紹介してもらったマリンレモンの摘みたての香りに感動！ それからわずか 1 年あまりでスピード参入を叶えました。というのも、すでに佐伯市が果樹の耕作放棄地を集約した大規模な土地が準備できつつあり、大分県、佐伯市、JA グループでプロジェクトチームを結成して、農地の造成から定植、栽培、収穫までを全面バックアップしてくださったおかげです。

レモンは、フレーバーにもフレグランスにも使われる王道の香調。その最も香りの良い時期に収穫できるのが、自社農園を持った最大のメリットだと感じています。需要に応えるためにも、まずは早期成園化と安定収穫を目指します。

詳しいストーリーは WEB でご覧いただけます >>>



団地面積

22 ha

参入
企業

国東市 | カボス団地

- 参入経営体= (株) ハマノ果香園
- 参入スケジュール=H17 進出先決定 → H19 (株) ハマノ果香園設立 (県営事業により園地の造成、定植) → H21.3 カボス 1 万 7000 本を定植した国内最大のカボス団地完成 / 営農開始 → H24 初収穫 → H31.3 園内に搾汁工場を建設 (R1.10~稼働)
- 活用した支援事業=旧農山漁村活性化プロジェクト交付金、ブランドを育む園芸産地整備事業、次世代を担う園芸産地整備事業、加工用原料産地拡大推進事業、六次産業化サポート体制整備事業

団地との出会いから就農を決意

(株) ハマノ果香園

社長 濱野 光展 さん



地元・広島県の柑橘を中心とする果汁の製造・販売を行っています。平成 17 年頃、そのラインナップにカボス果汁を加えたところ評判が良かったんです。当初、大分県の市場から原料を仕入れていたのですが、市場の担当者さんが県とのご縁を繋いでくださり、国東市に広大な温州みかんの遊休農地を紹介していただきました。農業は未経験で、自分たちで生産するなど思ってもみなかったのですが、原料の生産から果汁の製造まで手掛ければ価格決定に有利なことや、原料を安定して確保できることにメリットを感じ、参入を決めました。

何もかも初めてだった私たちにとって有り難かったのは、大規模に造成された園地にカボスの定植ができたこと。その後も、行政の方が営農指導に来てくださり、無事に収穫できるようになりました。団地内では大型機械を活用できるので、なるべく機械化に頼りつつも、かけるべきところに人手を投じながら収穫量の UP を叶えていきたいと考えています。

詳しいストーリーは WEB でご覧いただけます >>>

